

関節リウマチ (RA) 患者における抗 CCP 抗体と他の血清マーカーの有用性に関する検討

○川島 寿之¹, 樋浦 一哉^{1,2}, 竹田 剛², 江川(岩城) 祥子¹, 渡辺 泰裕¹(¹北海道薬大, ²帯広厚生病院)

【目的】RA は原因不明の全身性炎症性疾患であり、主病変は多関節炎である。近年、RA 患者の多くが、発症して 2 年以内に最も関節破壊が進行することが報告されており、早期診断の重要性がうたわれている。自己抗体である抗シトルリン化環状ペプチド (CCP) 抗体は、RA 診断基準に含まれるリウマチ因子 (RF) よりも RA に対し感度・特異度が高く、有用性が期待されている。しかし、初診時に抗 CCP 抗体陰性であった患者の中にも後に RA と確定診断される場合がある。そこで、抗体陰性 RA と他の関節疾患との鑑別診断に有用な血清マーカーの検討を行った。【対象・方法】初診時に関節痛を主訴として来院した 85 名を対象とし、血中の抗 CCP 抗体、RF、高感度 CRP (hCRP)、マトリックスメタロプロテアーゼ-3 (MMP-3) 等を ELISA 法で測定した。診断は、早期 RA 診断基準またはアメリカリウマチ学会診断基準に基づいた。【結果】患者 85 名中、抗体陽性患者は 24 名 (28.2%)、陰性患者は 61 名 (71.8%) であった。陽性患者中 22 名 (91.7%) が初診時に RA と診断され、確定診断でも変化はなかった。一方、陰性患者 61 名中 21 名 (34.4%) が初診時に RA、13 名が変形性膝関節症 (OA) と診断されたが、確定診断では RA 患者は 11 名 (18%)、OA 患者は 17 名であった。陰性 RA 患者と OA 患者間には RF 値に有意差は無く、炎症マーカーである hCRP 値と軟骨破壊に関与すると言われる MMP-3 値に有意差が見られた。hCRP 値と MMP-3 値のカットオフ値を設定し検討した結果、抗体陰性 RA 11 名中 7 名 (63.6%) が陽性、OA 17 名中 1 名が陽性であった。【考察】以上の結果は、関節痛を主訴として来院した患者において、臨床所見の他に抗 CCP 抗体陽性であれば、早期 RA と診断し、また陰性で OA と鑑別しにくい場合であっても、hCRP と MMP-3 値が陽性であれば、RA である可能性が高い患者であることを示唆する。